

「大分市デジタルアーカイブ ～おおいたの記憶～」について



大分市教育委員会文化財課 串間 聖剛



1 大分市について

大分県の県庁所在地(中核市)

人口:472,887人(2023年7月1日現在) 面積:502.38km²

中世には大友氏の拠点、戦国時代には国際貿易都市として繁栄するが、江戸時代は大友氏の改易により多くの藩に分かれる。

戦後、周辺5市町村との合併、新産業都市への指定により人口が急激に増加。
平成17年に隣接する2町と合併し、現在の市域となる。

→地域ごとに独特の歴史文化が育まれる。



府内城跡



大友氏遺跡





2 事業の概要

・市内の文化財・史跡の他、地域の行事や伝統芸能、豊かな自然や景観・まちなみ等の文化資源の保存・公開・活用を目的として「大分市デジタルアーカイブ～おおいたの記憶」を公開。

・市内に残る貴重な「文化資源」を次世代へ継承してだけでなく、観光・教育・産業など、様々な分野へ活用を促進する。



2 事業の概要



事業名称は「DXによる地域文化資源の継承および活用推進事業」

総事業費: 779万円(内、480万円は公益財団法人図書館振興財団の助成金を活用)

- ・令和4年7月 公募型プロポーザルにより事業者決定
(株式会社オーイーシー、データベースは早稲田システムのI.B.Museum)
- ・令和4年8月～ システム構築に着手、3Dモデル・高精細画像等の撮影
- ・令和5年3月 システム構築完了
- ・令和5年6月1日～ 「大分市デジタルアーカイブ～おおいたの記憶～」一般公開
(公開資料数: 約1700件 7月末現在)



3 大分市デジタルアーカイブの特徴

多くの市民に関心を持ってもらい、触れてもらうことが必要。→その先に、活用がある。

- ・誰もが使いやすいUI(ユーザーインターフェイス)を採用
- ・画像は個人、他館所蔵資料などを除き、原則としてオープンデータ(CC BY)として公開
- ・目的が無くても気軽に利用してもらうため、スペシャルコンテンツの充実を図る。

目的から探す



所蔵館で探す



スペシャルコンテンツ





3 大分市デジタルアーカイブの特徴

検索機能について

フリーワード・時代・ジャンル・指定区分のほか、
「地域でさがす」を実装

市内の13地域ごとに専用ページを設け、
Googleマップとの連携により位置情報を表示



→ 地域活性化への活用を促進

ホーム > 地域で探す > 明野地域



明野地域は、大分市の中心市街地から東の丘陵地に位置する住宅地です。元々は狭野山という場所でしたが、戦後開拓により「明野」と命名され、昭和38年の新大分市発足とともに、大分市明野となりました。大分市が新産業都市に指定されたことにより、県営住宅や進出企業の住宅が建てられ、まちが広がっていました。全国各地からの転入者が多い地域であり、住民主体により歴史・伝統・文化を積み上げています。

時代を選ぶ 先史 古代 中世 近世 近代 現代 時代設定なし

種類を選ぶ 指定文化財 地域文化資源 写真・絵葉書

検索



明野地域の専用ページ



3 大分市デジタルアーカイブの特徴

スペシャルコンテンツについて

・大分市の今昔

古写真・絵葉書に残る過去の大分市の風景と、同位置・同アングルで写真を撮影。

現時点で市内37ヶ所の今昔の比較写真を公開

→「大きく変わった場所」と「昔と変わらない場所」がある。

どちらの場合も、市民がその場所の歴史に思いをはせるきっかけとなる。

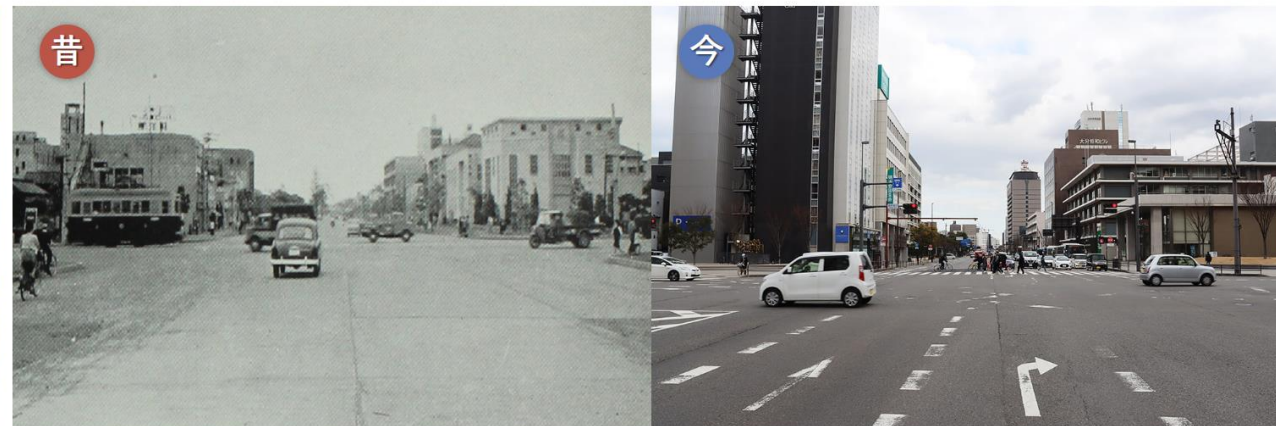
西之丸西南隅櫓と堀

昭和通り交差点



明治35年頃（森本卓哉氏提供）

令和5年5月



昭和32年（「大分市市勢要覧」より）

令和5年2月

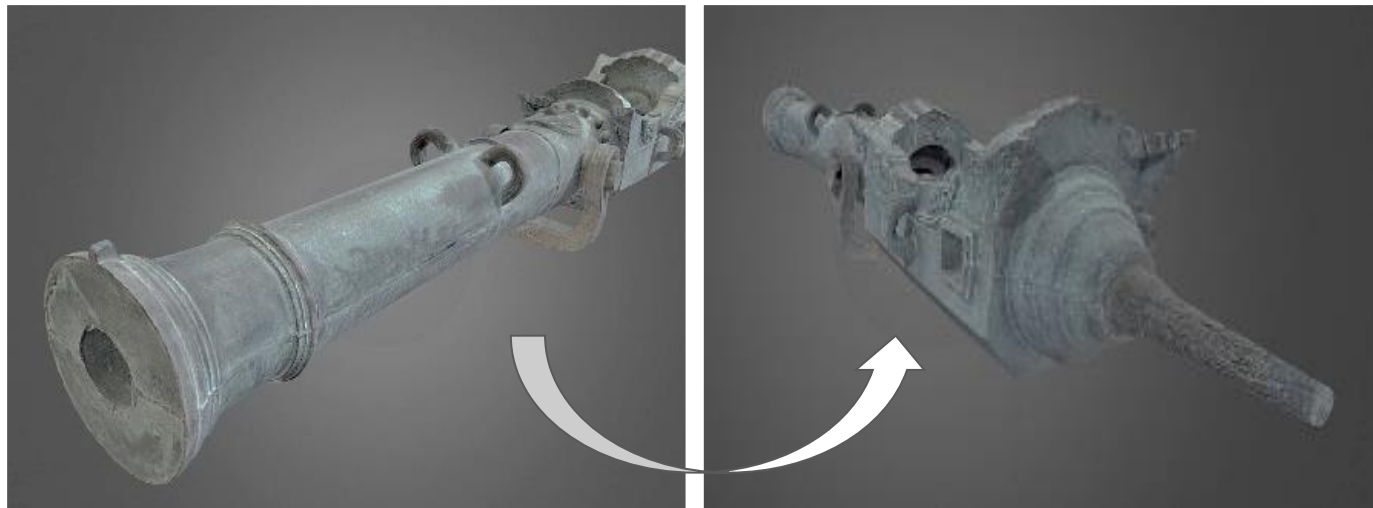
3 大分市デジタルアーカイブの特徴



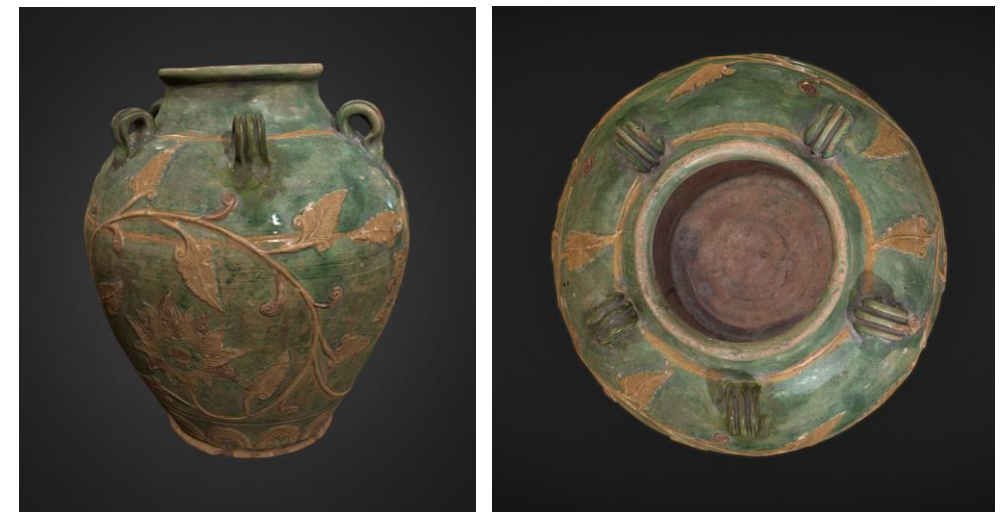
・3Dミュージアム

歴史資料館が所蔵する「国崩し(レプリカ)」「華南三彩貼花唐草文五耳壺」の3Dモデルを作成
一般社団法人路上博物館による撮影、採用技法はフォトグラメトリー、Sketchfabによる公開

実物展示では見ることができない角度や距離から、360度にわたる自由な視点で鑑賞することが可能。



国崩し(レプリカ)



華南三彩貼花唐草文五耳壺

3 大分市デジタルアーカイブの特徴



・御城下絵図の世界(高精細画像)

高精細Webギャラリー公開システム「Gaze-On」(株式会社ボイジャー)を用いて、約30mの絵巻物「御城下絵図」(大分市歴史資料館所蔵)を公開。

およそ50枚の写真を統合し、高画質のまま公開。通常では全体展示は難しいが、好きな場面を拡大し、自由に閲覧が可能。重要な場面には解説も表示される。



「御城下絵図」(大分市歴史資料館所蔵)





4 これまでの成果

- ・令和5年6月1日「大分市デジタルアーカイブ～おおいたの記憶～」の一般公開を開始。
→大分県内の新聞各社・テレビなどに取り上げられる。
- ・公開から3か月（R5.6～8）のアクセス数
ユーザー数：7400人（公開初日は1200人） ページビュー数：110,000件
全国各地、世界各国からのアクセスがある。
- ・公開後、庁内および市民からの資料提供、公開依頼が相次いでいる。
- ・8月よりジャパンサーチとの連携を開始



5 今後の予定と課題

今後の予定

- ・市内の指定文化財の3D撮影(事業費588万円「デジタル田園都市国家構想交付金」を活用)
- ・地元短大との連携による地域の「語り部」への聞き取りと映像化
→ともにスペシャルコンテンツとして今年度中の公開を予定
- ・その他、地元企業の商品開発への活用を提案中

今後の課題

- ・デジタルアーカイブをさまざまな分野で利活用してもらいたい。
→デジタルアーカイブの認知度向上、使い方の周知、活用方法の提案が必要
市民参加型のワークショップの実施、小中学校への出前講座など
- ・持続的なコンテンツの更新
→リピーターを増やすことにより、利活用の促進を図る